

# 私立 千葉商科大学附属高等学校 シラバス

地理歴史科 「日本史探究（2年普通科総合進学コース）」	単位数	3単位	学科	普通科
	学年	2	組	A～B・D～G

## 1 学習の目標、評価の観点、内容及び評価方法

学習の目標	<p>①歴史的イベントがなぜ発生したのか、それによってどんな影響があったのかなど考えることによって、物事を経過を追いながらとらえ、論理的に思考できるようにします。</p> <p>②「未来への手がかり」が「過去に学ぶ」ことによって得られることを理解します。</p> <p>③どのようにして歴史を勉強していけばよいのか（「歴史の学習法」）を身につけます。</p> <p>④歴史に関する知識を増やすとともに、これらが各自の進路目標決定の一助となるようにします。</p> <p>⑤我が国の伝統文化に対する関心を高めます。</p> <p>⑥今日我が国が抱える問題がどのような歴史的事象に起因しているのかを理解させ、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養います。</p> <p>⑦大学入試の準備を開始し、学んだ範囲の内では入試問題もこなせるようにします。</p> <p>⑧社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、公民としての資質・能力を育成することを目指します。</p>
-------	--

育成する資質能力	「思考力」「判断力」
学校ルーブリック項目	「向上心」「自律」「自己肯定感」「友愛」「創造性」「社会貢献」 「思考力」「判断力」「表現力」「人間関係力」

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・準拠ノート ・ワークシート	・準拠ノート ・ワークシート ・振り返りシート ・授業中の行動観察
配分	70%	20%	10%

## 2 学習計画・使用教材

学期	学習内容	学習のねらい	備考（特記事項、他教科との関連など）

<p style="text-align: center;">第 1 学 期</p>	<p>第1部 原始・古代</p> <p>第1章 日本文化のあけぼの</p> <p>1 文化の始まり</p> <p>2 農耕社会の成立</p> <p>第2章 古墳とヤマト政権</p> <p>1 古墳文化の展開</p> <p>2 飛鳥の朝廷</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解します。</li> <li>・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づきます。</li> <li>・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察します。</li> <li>・集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察します。</li> <li>・原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現します。</li> <li>・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえます。</li> <li>・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察します。</li> <li>・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解します。</li> <li>・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察します。</li> <li>・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解します。</li> </ul>	<p>①中間考査</p> <p>②期末考査</p>
<p style="text-align: center;">第 2 学 期</p>	<p>第3章 律令国家の形成</p> <p>1 律令国家への道</p> <p>2 平城京の時代</p> <p>3 律令国家の文化</p> <p>4 律令国家の変容</p> <p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p> <p>第2部 中世</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・律令国家が成立するまでの政治過程について考察します。</li> <li>・律令にもとづく国内統治体制について理解します。</li> <li>・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察します。</li> <li>・平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察します。</li> <li>・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察します。</li> <li>・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解します。</li> </ul>	<p>③中間考査</p> <p>④期末考査</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察します。</li> <li>・東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解します。</li> <li>・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察します。</li> <li>・日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえます。</li> <li>・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解します。</li> <li>・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察します。</li> <li>・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察します。</li> <li>・地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察します。</li> <li>・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解します。</li> <li>・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察します。</li> <li>・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察します。</li> <li>・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現します。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">第 3 学 期</p>	<p>第6章 武家政権の成立</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 鎌倉幕府の成立</li> <li>2 武士の社会</li> <li>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</li> <li>4 鎌倉文化</li> </ol> <p>第7章 武家社会の成長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解します。</li> <li>・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察します。</li> </ul>	<p>⑤学年末考査</p>

	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 室町幕府の成立</li> <li>2 幕府の衰退と庶民の台頭</li> <li>3 室町文化</li> <li>4 戦国大名の登場</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解します。</li> <li>・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察します。</li> <li>・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解します。</li> <li>・非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察します。</li> <li>・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解します。</li> <li>・伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察します。</li> <li>・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察します。</li> <li>・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解します。</li> <li>・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解します。</li> <li>・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察します。</li> </ul>	
--	---	--	--

使用教科書	山川出版社『詳説日本史（日本史探究）』
副教材	第一学習社『最新日本史図表』 ナガセ（東進ブックス）『日本史一問一答』 山川出版社『詳説日本史改訂版整理ノート』

### 3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	①歴史の学習は興味を持つことから始まります。興味を持つためにも教科書や副教材にはこまめに触れておきましょう。
---------------------	--

	<p>②興味を持ったなら、「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」「なぜ」「その結果」と考えを進め、論理的に考えましょう。</p> <p>③知識の積み重ねなくして思考することはできません。「歴史用語」等覚えるべきことは一つでも多く覚えましょう。</p> <p>④授業の復習は必ずしましょう。</p> <p>⑤日本史の学力を向上させるためには「史料を読みこなす力」が必要です。そのためには「古文」の学習にも力を入れましょう。</p> <p>⑥わからないことは、積極的に質問しましょう。わからないままにしないことが、学力向上の秘訣です。</p>
<p>授業を受けるに当たって守ってほしい事項</p>	<p>①授業形態は教科書・副教材を参考に、板書による講義形式が中心です。授業中、ノートは必ずとりましょう。</p> <p>②授業には必ず副教材を持参しましょう。</p> <p>③質疑応答を多用し考える時間を多く取るように展開するので一緒に考え、思ったことは積極的に発言しましょう。考えた上で講義を聞くと、理解力が飛躍的に向上します。</p> <p>④歴史の学力向上には家庭での復習が不可欠です。帰宅後、必ずワークブック等でその日に学んだことについて確認をしてきましょう。</p>
<p>その他のアドバイス</p>	<p>①昔の出来事や人物に興味を持っている人は多いはずですが、その興味を大切にしてください。</p> <p>②歴史の勉強は過去の人物・出来事をいたずらに暗記することではありません。昔の人が何を考えながら生きていたのかをよく味わってください。そのためには教室で行われる授業だけにとどまらず、図書館・博物館や遺跡・史跡等を訪れ積極的に歴史に触れて下さい。</p> <p>③現在世界で起こっている諸事象のほとんどが、その原因・理由が授業で学ぶ内容に関連しています。従って、臨機応変に教科書に沿った進行から多少離れることもあります。また、テレビ・ラジオ・新聞のニュースには常に触れ、関心を持って下さい。</p> <p>④史料（資料）集を用いることにより、史料（資料）の活用法を学んで下さい。</p> <p>⑤大学受験も視野に入れたコースであることを自覚して授業に臨んで下さい。</p> <p>⑥「昔の人はどうしてこんなことをしたのだろう？」などとがなが得ながら授業に臨むと、授業が楽しくなると考えています。小さなことでも疑問に感じてください。</p>